

平成26年度 学校自己評価システムシート (県立川越女子高等学校)

目指す学校像	「学力の向上」と「人格の陶冶」を柱として組織的教育活動を展開し、進学実績の向上を図る。生徒が主体的に学ぶ「質の高い授業」の創造に全力で取り組む。
--------	--

重点目標	1 「質の高い授業」「組織的な進路指導」「SSH事業」等を継続的・体系的に実施することにより、生徒の学習意欲（進路意識）を喚起するとともに、自学自習力の定着に努め、学力の向上を図る。《「学力の向上」》 2 「品格のある、志の高い生徒」「自主・自律の精神に満ちた生徒」を育成するために、学校行事・生徒会活動・部活動及び体験活動等の充実を図る。《「人格の陶冶」》 3 学校自己評価システムを効果的に実施し、「目指す学校像」を実現するために教職員の学校経営参画意識を一層高めるとともに関係者との連携を更に深める。《「開かれた学校づくり」》
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	11名
	生徒	18名
	事務局(教職員)	10名

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (1 月 2 9 日 現 在)		
年 度 目 標		評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
1	○1年次当初での学習習慣の定着	・自学自習力の向上	・効果的な学習方法及び学習・生活状況調査を実施し、生徒の個別指導にあたる。	・家庭学習時間の不足する生徒が減少したか。	・集中学習(1年107名・2年114名参加)等により、自学自習力が向上した。	A	・生徒アンケートでは学習への取組が若干増加。また、集中学習の効果も踏まえ、家庭学習の確保及び主体的に学ぶ姿勢を強化する。また、様々な活動を通じ、学力の向上を一層図り、その検証をする。
	○生徒の自学自習力・学力向上の継続	・質の高い授業の創造	・管理職の授業観察、教員相互授業参観、公開授業(土曜授業等)、外部授業研究等により、質の高い授業を創造する。	・授業観察のフィードバックを適切に行ったか。また、授業相互参観の参加者が増え、質の高い授業ができたか。	・校長による授業観察のフィードバックを適切に行った。また、授業相互参観の参加者が延べ数で増加した。	A	・授業相互参観、特に他教科間の相互参観を増加させる。
	○組織的・体系的な進路指導の推進	・進路情報の共有化	①教職員・生徒・保護者のそれぞれに応じた研修会や説明会を実施する。 ②進路希望実現のため、志望校検討会等を組織的・体系的に実施する。	①進路指導計画に基づき、情報の提供や指導等を行ったか。 ②志望校検討会等を計画通り実施し、進路指導に活用したか。	①指導計画に基づき、教職員・生徒・保護者への研修会等を的確に実施した。 ②各学年の志望校検討会等により、生徒一人一人の進路指導に活用した。	A	・授業相互参観、特に他教科間の相互参観を増加させる。
	○SSH事業の発展	・SSH事業の発展	①SSHを核に進路意識を啓発する。 ②国際交流活動を推進する。	①教科間連携・サイエンス教室・出張講義等を指導計画通り実施し、進路意識が向上したか。 ②オーストラリア・ケアンズ校との受け入れ・交流が計画に基づき円滑に実施されたか。	①教科間連携・サイエンス教室・出張講義等を実施し、進路意識が向上した。 ②オーストラリア・ケアンズ校との受け入れ・両校にとって実りあるものとなった。	A	・SSHを核に進路意識を向上させるとともに、次年度のオーストラリア・ケアンズ校への訪問事業計画を策定する。
	○教育効果の維持向上に向けた施設設備等の維持管理	・施設設備の維持管理	・該当箇所の修繕及び物品の適正な管理を行う。	・施設設備の維持管理が適正に行われたか。	・施設設備の老朽化が進んでおり、限られた予算の中で、応急措置をした。	B	・施設設備の維持管理について、一層の適正化を図る。
2	○「自主・自律の精神」及び「品格の向上」の継続的指導	・自主・自律の精神に満ちた自立した人間の育成	①全ての教育活動において、生徒の自主的な活動を促すとともに、品格の向上を図る。 ②休日の有効活用及び下校時刻の徹底を図る。	①組織的・統一的な指導により、自主的な活動を支援したか。 ②下校時刻は守られたか。	①特別活動部等を中心とした組織的指導により自主的な活動が行われた。品格の向上に資する講演会等を実施した。 ②下校時刻は概ね遵守された。	A	・全ての教育活動において、今後も生徒の自主的な活動を促していく。
	○効率的かつ密度の高い教育活動(学校行事・生徒会活動・部活動等)の継続	・顧問や担任との密な連絡体制の確立	・短時間効率化を図る。	・短時間での活動に工夫が見られ、効率や成果が上がったか。	・顧問や担任等との連絡体制により、効果的かつ密度の高い活動が行われた。	A	・効率的かつ密度の高い教育活動(学校行事・生徒会活動・部活動等)を継続していく。
	○生徒相談体制の強化及び今日的課題に関する啓発活動の推進	・関係者の連携による生徒指導体制の充実	①こまめに生徒面談を実施する。 ②教育相談連絡調整会議(管理職・学年主任・担任・相談係等)により、指導の充実を図る。また、支援を必要とする生徒への対応を進める。 ③情報モラル向上委員会を核として、ネットトラブル防止講演会の開催及び保護者への啓発を行う。また、「いじめ防止基本方針」等に基づき、生徒指導体制の充実を図る。	①面談等により、積極的に関心や理解を促したか。 ②連絡調整会議が定期的かつ有効に行われたか。 ③情報モラル向上委員会が定期的に関わり、ネットトラブル等の今日的課題に対する取組を行ったか。	①年間計画以外にも、こまめな生徒面談を行い、生徒理解や支援を図った。 ②教育相談後のケース会議により、生徒理解を深めるとともに、連絡調整会議を有効に活用した。 ③ネットトラブル防止講演会の開催及び保護者への啓発を行い、情報モラル向上委員会による職員研修会を2回実施した。	A	・校内・校外の関係機関との連携により、教育相談体制の一層の充実を図る。また、情報モラル向上委員会を核として、本校生徒の現状を踏まえた情報モラル指導の在り方を検討し、具体的な指導計画を策定する。
3	○学校評議員・懇話会委員・生徒・保護者の意見のフィードバックと組織の改善	・学校自己評価システムの適切な運用	・学年、分掌、教科等ごとに到達目標を設定し、具体策を立案・実施・評価を行う。	・各組織が到達目標の達成状況について評価を行い、全体で共有できたか。	・目的達成状況の評価について、機会を設け全体で共有した。	A	・当初目標や達成状況の評価も適切に実施されたが、今後中間進捗状況について全体で共有する。
	○学校生活向上・改善に向けたアンケートの実施	・学校評議員や学校評価懇話会委員等からの提言の効果的な活用	①授業評価アンケート及び保護者アンケートを実施する。 ②各分掌教科会において、学校評議員や学校評価懇話会委員等の提言について意見交換を行う。	①授業評価アンケートを反映して、授業力が向上したか。 ②学校評議員や学校評価懇話会委員の提言や保護者アンケート等を学校運営や教育活動の改善に活かしたか。	①全体的に高めの授業評価となり、授業力が向上した。 ②学校評価懇話会等での意見を踏まえ、関係分掌に検討を働きかけた。また、保護者アンケートを精査・改訂した。	A	・授業評価アンケートを継続しつつ、今回改訂した保護者アンケートの結果分析を進めていく。
	○教育活動全般に関する情報発信及び広報活動の充実	・開かれた学校づくりの取組	①授業公開や学校説明会を効果的に実施する。 ②学校案内の改訂及びホームページの逐次更新を行う。	①授業公開や学校説明会により、本校の教育活動を適切に周知できたか。 ②学校案内の改訂、学校説明会の効果的実施、ホームページの逐次更新ができたか。	①土曜授業を14回実施、学校説明会の実施回数を減らし内容を精選した。 ②総務部が中心となり、組織的に効果的な学校説明会を実施した。	A	・学校説明会参加者の多くがホームページを参照している現状を踏まえ、さらに利便性の向上を目指す。
	○小中学校との連携推進活動の重点化	・小中学校との連携推進行事の効果的な実施	・中学校への学習支援及び小学校との交流等、小中学校との連携を密にする。	・出前授業等により、小中学校との連携が十分に図られたか。	・中学校学習支援・小学校交流・科学教室等により、互いの連携が深まった。	A	・小中との交流活動により、一層連携を深めるとともに、貴重な体験を生かせるように努めていく。
	○学校と家庭との連携の更なる強化及び情報提供	・PTA等との連携協力による学校の教育力の向上	・PTAの各種委員会を核として、PTA活動を活発に行う。また、様々な場面や方法により家庭への情報提供を行い、家庭との連携を深める。	・家庭への情報提供が積極的に行われたか。	・これまでのPTA活動に対して、優良PTA文部科学大臣表彰を受賞した。また、理事会やPTA行事等において、積極的に学校の情報提供を行った。	A	・PTA等との連携協力により、PTA活動の活発化を図り、学校の教育力全体の向上を行う。

学校関係者評価	実施日 平成27年2月7日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒にとって本当に興味あるものに集中し、没頭できる時間が大切である。 ・教員にとってのスキルアップのための時間を確保することも課題である。 ・生徒参加型の授業実践(ジグソー法など)はとても評価できる。 ・先生方が努力されながら、非常に熱心に指導されていることに感謝する。 ・生徒たちが忙しいのは事実だが、時間の効率的な使い方が課題である。 ・教科間連携などの指導を通して、知識を断片的でなく繋げていくことは重要である。 ・よい授業づくりのため、生徒からの発信していくことも重要である。 ・進路講演会等の講師の人選として、家庭をもちながらも科学界の第一線で活躍している等、見えない所で苦労されている、という視点も重要である。 ・いかにどう生きていくのか、ということは大切なことである。 ・進学だけでなく、生徒が様々な取組に力を注いでいることがわかった。 ・「困っている人や夢を達成できていない人への支援もしている」「誰も見捨てることはない」等をもっとアピールしてもよい。 ・川女への明確な志願理由をもった中学生が確実に増えている。それだけ、学校が教育活動を発信しているということである。 ・学習支援などの小中との連携はとても効果的であり、今後も続けてほしい。 ・保護者アンケートの回収率(7割以上)は非常に高く、それだけ保護者の関心が高いということである。 ・「学校の取組のどこが良いのか、どこを伸ばしてほしいのか」を問うようなアンケートの工夫をお願いしたい。良いところを更に広げていくことが期待できるからである。